

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992500074		
法人名	特定非営利活動法人 フロレンス那須		
事業所名	認知症高齢者対応型グループホームソフィア		
所在地	栃木県那須郡那須町大字寺子丙104-3		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村受理日	平成28年4月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者グループホームとして、地域密着という事で近くの中学校と関わりを持ち、地元のボランティアグループを多数受け入れ、利用者が多くの住民と交流が持てるように力を注いでいます。現在は、共用型デイサービスも積極的に実施しており、デイサービスの利用者様との交流も良い刺激となっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php</a>
----------	---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、2ユニットが開放された建物を活かして利用者が自由に行き来する事ができる他、共用型デイサービスも実施され、職員も全員で関われる体制となっているため、より多くの人たちと交流できる環境にある。近隣には中学校や保育園があり、散歩中などに交流がある。利用者一人ひとりが自分のペースで過ごせるよう配慮し、入浴も、浴室を2カ所から選べるなど、利用者それぞれの希望に沿い無理なく入浴できるようになっている。日々の課題は即時対応を心がけ、管理者と職員が随時話し合いできる体制作りに取り組んでいる。職場内研修等により職員育成も積極的に行い、各職員の達成度なども客観的に把握できるようにしている。利用者一人ひとりと向き合いながら質の向上を続けている事業所である。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成28年3月9日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和し、また常に見えるところに理念を掲示していることで、職員全員が理念を共有し実践につなげている。	「人を尊重し 人に感謝し 人に真心で接する」という理念を掲示し毎日唱和をしている。特に言葉遣いに対して日々意識をしながら支援を行うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、交流できるように支援している。また、近所の方々が農作物を持ってきて下さったり、お茶を飲んでいかれたりしている。	神輿や夏祭りなどの地域行事に参加している他、近隣の中学校、地域の音楽ボランティアとの関わりがある。食材等の協力業者や自治会長なども良好な関係を築いている。保育園とも日々の散歩等で挨拶を交わすなどの、日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座などを開き、認知症の理解、支援の方法などを地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、地域住民などの外部からの貴重な意見をサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1度家族代表、民生委員、地域住民等の参加により定期的に開催している。事業所の活動報告や地域の状況報告の他、行政から今後の動向などの話題も出され、情報共有に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の介護保険係や地域包括支援センター、社会福祉協議会と連携し、積極的に情報交換をしながら協力関係を築くように取り組んでいる。	町の担当者とは日々行き来をして情報共有をしている。認知症キャラバンメイトでは職員がチームとなって講師を務めるなど、町ぐるみの取り組みに対し積極的に協力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修を設け、職員一人ひとりが拘束をしないケアについて確認し、真剣に取り組んでいる。	「フロレンス那須 基本の言葉20」というフレーズ集を作成し、出勤時に声に出して読む事を徹底している。職場内研修では全職員の受講状況、達成度なども一覧できるようにしており、自己評価と管理者評価により質の向上を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修を設け、いかなる場合も虐待はいけないことを職員に徹底し、虐待のない事業所として取り組んでいる。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修を通じ、全職員が学べる機会が持てるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書の説明を丁寧に行い、十分に納得いただいてから契約に至るよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、利用者様の家族に意見を頂き、参考にさせていただいている。	家族の面会時に職員が個別に意見を聞き取ったり、相談等を受けている。情報は連絡ノートに記載して全職員に周知している。職員の確認漏れがないよう、項目1つごとにナンバー管理をして情報共有に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見交換などをし、また毎月の職員会議などで意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	毎月職員会議を開催し、事前に職員へアンケートを配布して意見を出せるようにしている。「会議まで持ち越さない」を目標に、改善点などは管理者と提案者が揃った時点で随時話し合い、即時対応が可能となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の定例会議により、個々の職員の意見交換をすることで、向上心を持てるような環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得などの支援をしている。また、OJT、OFF-JT等研修を受ける機会をできる限り確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護の職場実習の受け入れ施設として役割を果たしている。また、近隣の事業所と頻繁に意見交換を行っている。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、じっくりと話し合いを持つことによって本人の思いを理解し、安心できるような信頼関係が築けるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、じっくりと話し合いを持つことによって家族の思いを理解し、不安を感じさせないよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、しっかりとアセスメントし、何がまず必要かを見極め、対応に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人のできる事、できない事を把握し、暮らしを共にする者として、できる限り協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人を支えていく上で、職員、本人、家族の絆を大切にしながら、家族と共に同じ思いで取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人などの面会の度、一緒に写真を撮りアルバムに収め、いつでも見られるように取り組んでいる。	家族に毎月の請求書を送る際、利用者の写真を同封している。理美容院等への付き添いは家族対応としているが、家族の都合や本人の希望に合わせて職員が対応することもあり、馴染みの人、場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけフロアで過ごして頂き、利用者様同士が関わり合い、関係を深められよう取り組んでいる。別のユニットの利用者様、デイサービスの利用者様との関わりも良い刺激になっている。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した方との関係性も大切にし、必要に応じて相談や支援も行えるように取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションをとりながら、一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでいる。	「まず本人の気持ちに立って見る」を基本に、課題が出た際は「ひもときシート」を活用している。「自分の親がその対応をされたらどんな気持ちがするのか」など職員に対して様々な問いかけをしながら本人の思いを把握する力を向上させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や家族が来所された時に、これまでの生活歴や生活環境を聞き把握に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が一人ひとりの利用者様の現状が把握できるように情報共有の仕組みを実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に意見を聞いたり、月1回の職員会議での意見を参考にしながら介護計画を作成している。	計画は職員が随時見直しできるようにしており、ユニットごとに配置されたケアマネジャーが、往診の協力医などからも助言を得てまとめている。問題が生じた時点で話し合い、モニタリングが行われる体制となっており、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様々な種類の個別記録をもとに、日々の様子や、気づきを介護計画の見直しに十分活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の作った枠組みにとらわれず、臨機応変に、ご本人に最適なサービスが提供できるように取り組んでいる。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町主催のイベントを中心に、積極的に地域資源を利用し、楽しい生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則として本人及び家族の希望を尊重し、事業所としてその医療機関と信頼関係を築きながら支援している。	かかりつけ医との関係を大切にしており、受診の際は家族の対応が難しい場合には職員が対応している。事業所の協力医には内科や歯科があり、往診も受けられるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の身体状況を確認し、変化があった際はすぐに看護師に報告し、早めの対応に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の同行、入院中の面会、家族との連絡を密に取り合い、直接医師より話を伺ったり、情報交換をしてより良い関係に取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院先の医療チーム、当ホームの協力医療機関、ご家族様とよく協議し、話し合いを重ね、良好な関係を構築している。	重度化した際は、家族と医師、施設長、管理者などがチームとなって事業所で対応可能なレベルについて検討している。家族の意向と本人の状態によって看取りも行っているが、病院など本人に合った場所へ移れるような協力体制もとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルに沿って実践できるようにし、定期的に研修をおこない職員一人ひとりの技術を身につけていけるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている他に、夜勤者2名での模範訓練を毎月行い、消防署や近隣との協力のもと、万が一の災害にそなえている。	消防署立ち会いもと訓練を行い、随時火元を変えて避難ルートを確認している。職員連絡網により全員が駆けつける体制となっており、防災訓練では近所の方も参加をしている。自家発電ができるよう整備しており備蓄の点検も定期的に行っている。	地震や竜巻の想定されるエリアであるとの調べもある為、火災以外の災害への対応も訓練の中に取り入れていくことを期待したい。

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活環境をよく把握し、言葉遣いなどに気をつけ、人格の尊重を優先に生活援助に取り組んでいる。	職員は「フロレンス那須 基本の言葉20」というフレーズ集を出勤時に音読し、言葉使いに配慮しながら業務にあたっている。職員一人ひとりの達成度が全体でもわかるようになっており管理者等が随時指導をしながら人格を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に利用者様の意思表示を促す声かけをし、自己決定ができるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合を優先することなく、その人らしさにこだわり、個々のペースに合わせた生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分や季節、天気によっておすすめしたり、本人の希望に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食メニューを公表し、それを話題にした、できる範囲で調理、片付けなどの手伝いをして頂き、楽しみながら行っている。	調理は専属職員が中心に行っている。利用者は地元商店に食材の買い物にでかけたり、食器拭きやテーブル拭きなどにも参加している。職員は利用者と一緒に食事し、季節の行事食や誕生ケーキなども一緒に作るなど、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事や水分の摂取量を記録し、変化があればすぐに話し合いを持ち、常に栄養や水分の摂取に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、必ず仕上げは職員がお手伝いさせて頂き、清潔保持できるように支援している。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを常に把握できるように排泄チェック表をつけ、トイレでの排泄ができるように支援している。	排泄チェック表を使用し、トイレでの排泄を支援している。夜間には安心して休めるように利用者の希望に応じてオムツやポータブルトイレも使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容、運動などを考えて、そして毎日手作りのヨーグルトを摂取することで、極力薬に頼らないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく、事業所側の都合と利用者様の希望が合うように時間帯を調節し、より楽しく快適に入浴できるような支援をしている。	午後の時間帯を中心に週3回程度入浴している。2カ所の浴室から選べる他、1番風呂を好む利用者にはお湯を新しくして浴室も整え1番の雰囲気が出るように工夫するなど、利用者の希望にあわせた支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息や夜の睡眠に対して、個々の生活リズムを尊重し、その方にあった休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容が確認できるようになっており、職員一人ひとりが把握し適切な服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割や楽しみを持っていただき、張りのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	活動予定以外にも天気の良い日など外出する機会を多く設け、気分転換ができるように支援している。	事業所の外周を散歩しながら近隣の人と挨拶を交わす等、交流できるようにしている。花見等、季節に合わせた外出も行い、写真を撮って記念にしている。近隣にある障がい者施設に喫茶店があり、お茶を飲むこともある。年1回日帰りの遠出もしている。	



認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々でお金を所持し、買い物することは殆どないが、お金を所持していることで不安を解消できる方は、少しだけ所持して頂き対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って電話の支援をしたり、便せんや封筒を用意し、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく開放感のある空間になっており、季節感やその時期の行事などが感じられるものを飾るなど工夫している。	共用空間は解放感があり、温湿度管理のほかに空気清浄器も設置して環境を整えている。玄関には利用者の作品などを飾り、季節を感じられるように工夫している。掃除も行き届いており清潔感のある環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれたり、気の合った利用者様同士で過ごせることはもちろん、ユニット間の隔たりを無くすことで、より自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物を自由に持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	居室のレイアウトは本人の希望にあわせ、利用者と家族が中心に行っている。ベッドや車椅子、ポータブルトイレの貸出も行い、利用者は位牌や神棚など、思い思いの物を自由に持ち込んで、居心地よく過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの持っている力に合わせ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるような環境を作っている。		